富秋中学校区等まちづくり検討会議（平成 29 年度第１回）　委員発言

■富秋中学校区等の現状について　　資料５【富秋中学校区等の現状】

※以下、特記無き場合委員の発言

- 富秋中学校や幸小学校、池上小学校は耐震化工事をしていると思うが、市有施設の耐震化状況など調べていると思うので、現状として整理しておくと良い。
- 幸・王子のまちづくりに長年関わっていて、特に気になるのは「高齢化」と「少子化」。市営住宅が集積しているまちなので、仕方がない部分もあるが、若い世代や高齢者、社会的弱者と言われる障害者等も住めるような「コミュニティバランス」が大事になると思う。市営住宅は入居者要件等により高齢者や生活が苦しい方に偏ってしまう住宅施策になっているが、様々な人が住めるまちにしていきたい。
- 地域のこどもたちが少ないことで、先生とこども・保護者の距離が近いというメリットもあるが、やはり将来性を考えると、少しでもたくさんの若い人が入ってきてくれるようなまちにしていきたい。そのためにも、若い人の意見をもっと聞いていけるような地域にしたい。子どもが少ないと難しいこともあると思うので、地域の皆さんで子ども達を守っていってもらえるような施設や、年上の方の意見を聞いて子ども達が勉強になるような場所があればと思う。
- 池上小学校では唯一２クラスあるのが６年生で、３月に卒業すると全学年が１クラスになる予定である。１クラスでは遠足等の際に人数が少ないのでバスで行けないといった問題も出てくる。
- 地域に避難所がたくさんあるが、どのように避難すべきか、避難ルートを分かるようにしたい。若い人は問題ないかもしれないが、高齢者の避難の事を考えると不安。
- 高齢者は災害時の事を考えると不安である。男性が働きに出ている場合、女性が地域を守ることになるので、女性消防クラブは強力な存在である。幸校区では女性消防クラブが活動しているので、それを軸に、住民に不安を与えないような取り組みを考えていきたいと思う。また、3 月 6 日に幸・伯太・池上で 3 校区協力して防災訓練を行う予定である。
- 若い世代が子どもを産んでくれれば、数字上は高齢化率の現状維持もしくは低下が出来ると思うので、若い世代に入ってきてもらい、子育てをしてもらって、他市に流出・転出しないまちとなれば良いだろう。
  また、小学校の生徒数の減少が示されていて、資料番号 5　P7「公共施設等総合管理計画における最適配置の基本方針」において、幸小学校・池上小学校・富秋中学校の統合の所に●が付いているため、(小中一貫校の検討は) 早急にしないといけないと思う。現状では他市からの転入を敬遠される人もいるかもしれないが、若い世代が住んでもらうための施設など、まちに魅力があれば良いのではないかと思った。
- 若い世代に住んでもらう取り組みとして、住宅展示場では、住宅購入者層の若い世代の人を対象に、和泉市の小中学校の給食メニューカレンダーを渡しているようだ。若い人が喜んで住める住宅を建てていくことが、子どもを増やすことにつながるのではないか。

- 池上校区では自主防災組織を作っているが、机上で終わってしまい、浸透していない。会合がある度に、若いお祭り関係の人には呼びかけている。訓練も行わないといけないと思っていた中で、3月6日の防災訓練の話が出たので、大勢で参加していただきたいと思う。

■今後の進め方について　資料6【当面の進め方について】
資料7【第1回住民ワークショップについて】

- 今までにも、「まちの活性化」や「住みやすい地域づくり」をテーマに、ワークショップのような形で住民からご意見をもらったこともあったが、話し合った結果が住民に反映されてないことが多かったように思う。地域の良いことや悪いこと、ゴミの出し方や犬のフンの始末の問題など日常的な意見が住民からたくさん出るが、それを地域や市が具体的にどのように進めていくか、意見への返事が重要になると思う。
  ⇒（和泉市）
  とても大事なことだと思う。ワークショップでは色々な話が出ると思うが、目の前の具体的な話についてはお返しする機会を持たないといけないと思うし、将来のまちづくりに関する話については、いただいた意見をまちづくり構想に反映していければ良いと思う。

- 具体的に、和泉市の中でどういうまちづくりの構想を持っているのか。ワークショップを行うにあたり、参加者からすると、自分たちに直接どれだけ関わってくるのか気になると思う。学校は将来的に一つにするのか、住宅をどれだけ減らすのか、など、市で構想が大体できていると思うので、具体的に知りたい。
  ⇒（和泉市）
  たたき台なしで一から話し合っていただいてもなかなか議論を積み上げられませんが、まずは地域の課題を共有することが大事でその時間を取らせていただき、その後、5月以降を目安に必要な時期に、出てきた意見をもとにたたき台を出しながら具体的な議論を行っていきたいと思う。

  ⇒（和泉市）
  公共施設等総合管理計画の中で、現在管理している2,200戸程度の市営住宅を、1,500戸以下に減らすという目標を立てている。それに基づき、地域の市営住宅の集約化や民間活力の導入、民間委託など、市営住宅のあり方について検討をしていくが、この検討会議での意見を吸い上げてまちづくりをしていかなければいけないと思う。また、市営住宅の跡地については、集約後に民間活用してもらう等も考えられる。皆さんの意見を聞きながら検討を進めたい。
  ⇒（和泉市）
  幸小学校、池上小学校、富秋中学校はいずれも、平成20年から比べると、減少しており、幸小学校は1クラス10人に満たないケースも出てきている。池上小学校も2クラスあった所が、1クラス程度になってきている。少人数の良さもあると思うが、人間関係の固定化や、小学校から中学校にあがる時のギャップを考えると、複数の学級があることや、小学1年生から中学3年生まで、一つの流れの中で、9年間貫いたカリキュラムで育っていくことの方が望ましいという研究結果が出ている。平成29年4月には（小中一貫校として）南松尾はつが野学園を設置した。そのため、小中一貫校は一つの考え方として有効な方法であると捉えている。ただ、まちのコミュニティの核として学校は大きな存在だと思うので、地域の方との関係性を大事に考えながら、検討会議や専門部会での

意見を踏まえて検討を進めていきたい。

- この校区はスーパーや学校、病院もあり、利便性が良く住みやすい地域だと思うので、若い人に住んでもらえる構想を考えられれば、自然と子どもも増えてくると思う。地域内で最近、古いアパート２棟を壊して新しくハイツに建替えたものがあるが、ほとんど満室のようだ。住める環境があれば、この地域には若い人が住んでくれると思う。これにより実際に子どもが増えてきたように感じている。